

観 察 会 (コース)	きのこの研修会 (道民の森月形地区)	
開催日時	令和2年9月16日 (水) ; 9 : 30 ~ 11 : 40	
天 候	曇り後晴れ、一時小雨 25℃	
参加者数	講師 松原 健一氏 (ボラレン会員)	ボラレン参加者 : 8名
観 察 記 録	きのこ	<p>&lt;採取及び確認したキノコ&gt; ・25種            アイバカラハツ、キチャハツ、キチチタケ、チチタケ、クサハツ、シロハツ、ササクレヒトヨタケ、ハラタケ、ホコリタケ、ナカグロモリノカサ、ヤマドリタケモドキ、コガネヤマドリ、オオクロニガイグチ、スギヒラタケ、ナラタケ、ヒメキツネタケ、ミヤマタマゴタケ、タマゴタケ、ウラベニガサ、アシグロタケ、ウスヒラタケ、シロハカワラタケ、イタチナミハタケ、チャカワラタケ、冬虫夏草 (セミの幼虫に寄生)</p> <p>&lt;松原講師のキノコ解説から学んだこと&gt;            ・何のキノコか調べる時には、第一に木から出ているか、土や草地から出ているかを見る。第二に、キノコの形や色、大きさ等の外見で見分ける。            ・キノコは、雨に当たると弱い。胞子を飛ばせなくなるので。            ・カバアナタケは、抗がん作用があるとのことで、一時期多量に採取されて、ほとんどなくなった。            ・イグチ科 (傘の裏がスポンジ状のキノコ) のヤマドリタケモドキは、広葉樹の森に生える。ヤマドリタケは、針葉樹の森に生えている。この両者は、イタリアではポルチーニ茸と呼ばれ優秀な食菌である。            ・テングタケは、姿形からすると最もキノコらしいが、しかし猛毒のキノコである。雨に当たる笠上の点々 (イボや裂片) が取れて別のキノコに見えるので、注意しなければならない。            ・冬虫夏草は、様々な種類の昆虫に寄生するキノコで今回はセミの幼虫だった。</p>
	野草等	<p>&lt;開花・結実&gt; ミゾソバ、アキノウナギツカミ、ユウゼンギク、オオアワダチソウ、ゲンノショウコ、エゾゴマナ、オオハンゴンソウ、イヌタデ、アキノキリンソウ、コウゾリナ、ヤマニガナ、センボンヤリ、ミナモミ、ミヤマヤブタバコ            &lt;結実&gt; ウド、ヨツバヒヨドリ、ギンリョウソウモドキ、ヤブハギ、キンミズヒキ、ミヤマトウバナ、オオイタドリ、ノブキ、ヤマトキホコリ、ススキ            &lt;シダ植物&gt; シシガシラ、ミヤマワラビ、ホソバシケシダ、ヤマイヌワラビ、ミゾシダ、イヌガンソク、ミヤマシケシダ</p>
感想など	<p>・当日は、曇りや晴れ、一時小雨と不安定な天候でありました。前半は、講師の松原さんの案内で説明を受けながら、森に入りキノコ探しと採取をしました。後半は、キャンプ場の東屋に移動して、採取したキノコと講師が事前に準備されていたキノコを加え、それぞれの特徴や分類方法、食毒の見分け方等の丁寧な説明がありました。</p> <p>・9時40分頃から約2時間の研修会でしたが、内容が濃くあっという間でした。終わりに、松原さんが事前に採取した食べられるキノコや自作したキノコの三升漬け等をお土産として頂きました。講師の松原さん、準備等を含め大変有難うございました。</p> <p>・野草等は、キノコ探しをした道沿いで私が確認したものです。 報告：阿部徹</p>	

<オンコの巨木の前で記念撮影>



<キノコを採取している様子>

